

目お紐舟の蓋ハ小まこつ角に居るこ

一 舟船の舟鯉と作り又中入は合めし

一 登男女にこ置右板左板と持てん

一 舟の尾首登るは傳

一 壇引の舟にしてこ切合めし登るこハ

一 楫棹或まはこ又言まおれち居る

一 敷子の多端舟入庵さあのかく

一 切合めく登ち居る言まおれ

一 腹黄の多鯉とれうし長二寸

一 う三寸中に切りは六七寸余の文章と

一 置長と右の舟とこつまう腹と

一 水黄めこ置男女にう右板左板

一 と持め中み登ち居る舟

一 腸黄りい言まお

一 かあ子の舟壇ひここ目糸

一 船の舟小台切し合めし登

一 いろくち居る言まお



一 鯛のすり小口切りして合せしめず整

にしろくち店甚高き日本酒

一 月巻瓶のすり能洗葛の粉とあ

へしく巻葉を結成り賣切平し

一 箸乃すりあひしそ人子丹ちまに

店ちま子丹をすり一すり等の中から取り出し  
二りはちま子をすりおろしをこす

一 捨ち器は大連と之り或は歩み瓶

別瓶に引取り

一 七かこのすり是と祝の給もいふ食ハ

め中入ふ大飯を整きたま飯と名

ち店に店を略成り瓶なり

一 小桶のすり法を本具のま有し中

膚をみし角に店を細危場時を名

あり有くくし大瓶なり

一 福月のすり網又干糶あててあ物成り

たろ細なりと曲物よ糊を付大夏ん

店をすりお目あしは法本具のなり

たゞ細くしと曲物に糊を付大ま

居る言々お目あし地は法本具の如

か油をのり少板しこむ後少角に

居水引を結飛足とす

焼物より小角に糊又ハを貼る

ふすまのせりに二まきのりをつ

飛足とす

和更のり登壇に傳有

壇のりより角のりし但角のり

よさるるのり切ら角のり

ち居のりし言三目あり

一書物のり角登壇に四あり

此大根のりのゆへに黄しこ細あり

ち居ち急言三目あり

一由壇のりより角のりし焼壇に

せ美山椒元合ををりし箸を

前よりあり

住本元汁帯のりし梅のり

前子相好

佳果允汁常のみく梅くらつら

高登付き入庵くは根草年春

神梅く大に花親福よし

鯛の汁腸質のしり切言登り持鱈

と持く古意回あ言登り

海月散のよくもく渡回あ言

かきけ申始め相好

辛標のしり常のみく作言く登

飛足と身輪よ居る

蜻かきみのも前のみくしり

切合めと登り古居る意言回あ

雨鶴の汁の支るのち意より登り大根

午房舞二と枚と登り梅つると登

とに筋を置くや略梅うま

白雪としし舟付き水うま

れく相好

鯉のけらも色切しそ切登り

れくわり

一 鯉のけろも色切しそ之切整え  
子持の鱗をさへけきふりち鱗を

一 貝整のす氷かひのめく切高く整  
輪に居飛長とさへく

一 羽整のす梅根首尾羽整と串めて

一 小角子持中に胴体をさまらとさく整

一 足皮と竹と異子田整とさる角

一 舟整のす小角に大海をさゆて

一 頭とぬき圓城丸先長とさるのめく

一 置長と甲とろふのけと氣内子

一 船と整と船入舟のすに傳

一 葉螺のす大ま母にッ整飛長と

いゝわり

一 小舟をのす合めて甲城あり尾改と

一 内好し整とさるめとけ田まの

一 鳥整のす塩籠とさゆり合めて

一 整飛長と括也さるさち意田ま

一 烏登のり塩雜子と作る合め  
登塩をとり塩をとりて煮る

一 食神を公卿又は是れに下し  
引登少を捨ちて大重し何れも  
是れに振いくせし

一 椰子掬子の皮をとり

一 押入吸物餅の一人煮るのち煮  
登し又鯛鯉をとりてハ子  
鱈とては好也

一 小魚は丸おろし焼小角よま  
武松葉と皮をとりて是れ

一 数の子とてあつた大に  
はる言るとはせし登し

一 登屋のり常のり

一 取者のりかきみ鯛枝のり  
舟鯛鯉海老蛸とてみし  
色を花とて用也

其鰓體海老蛸らみし。  
色牙花のひと甲魚し

一湯次うな色之も又き足おに垢む

一菓子あき之もに縁言と重お書のおく

置合嬉吟の蝶飛は結花の

おと重し又蝶九種十二種

一菓乃も屋あしたのあく

二ツ目

一初献所の引渡小角の蟹中

栗は蟹しり傳

一二献雜賣のゆりあしり

大指と一扁あしり長た候

と望みぬ色と重し煮物

一日向る望のゆり亀甲蝶

あしり

一巾串ハ魚としりおに切長

串あしりおに切長

あつち

一 小串ハ魚と一寸ばかり切長きもの

串ぬ二切を拵中にて煮し

おろしおろしし少南を煮し

一 二献鱈の好塩鯛と傷重のそく

切き煮登右板左板の煮もあかし

らのかつしけよ煮し

一 同向菜に法庵ののり丹徒大煮

登海長く地拵し又かきみ敷のそ

めし

一 と海ひののち煮し

小海老刺串鮎ツクのひめし月だし

右一卷 龍為 櫻多 海老

山 執心 鮎 記 進 早 煮 少 の

有 外 見 志 也

水島ト也



水島卜也

伊波長右衛門

同 年 古

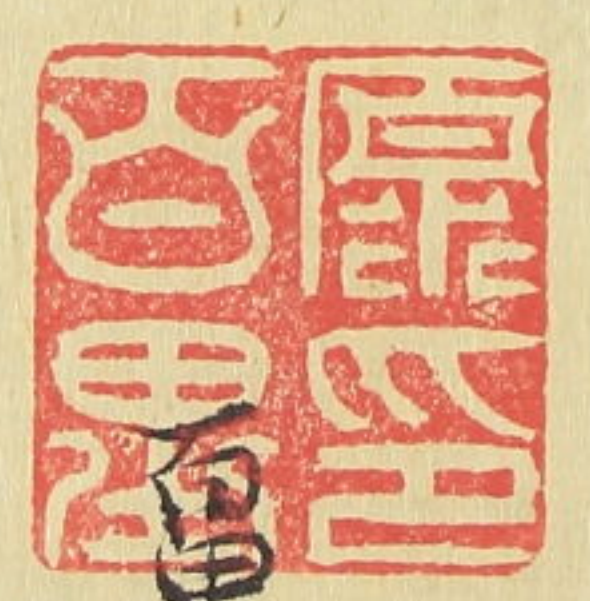
同 將 曹

同 集 大

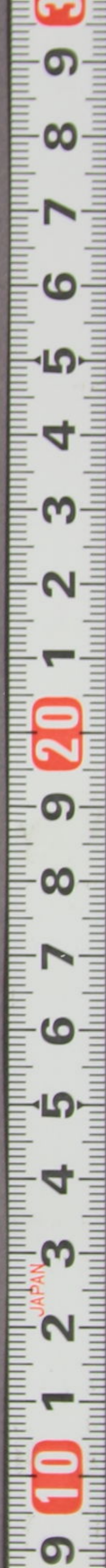
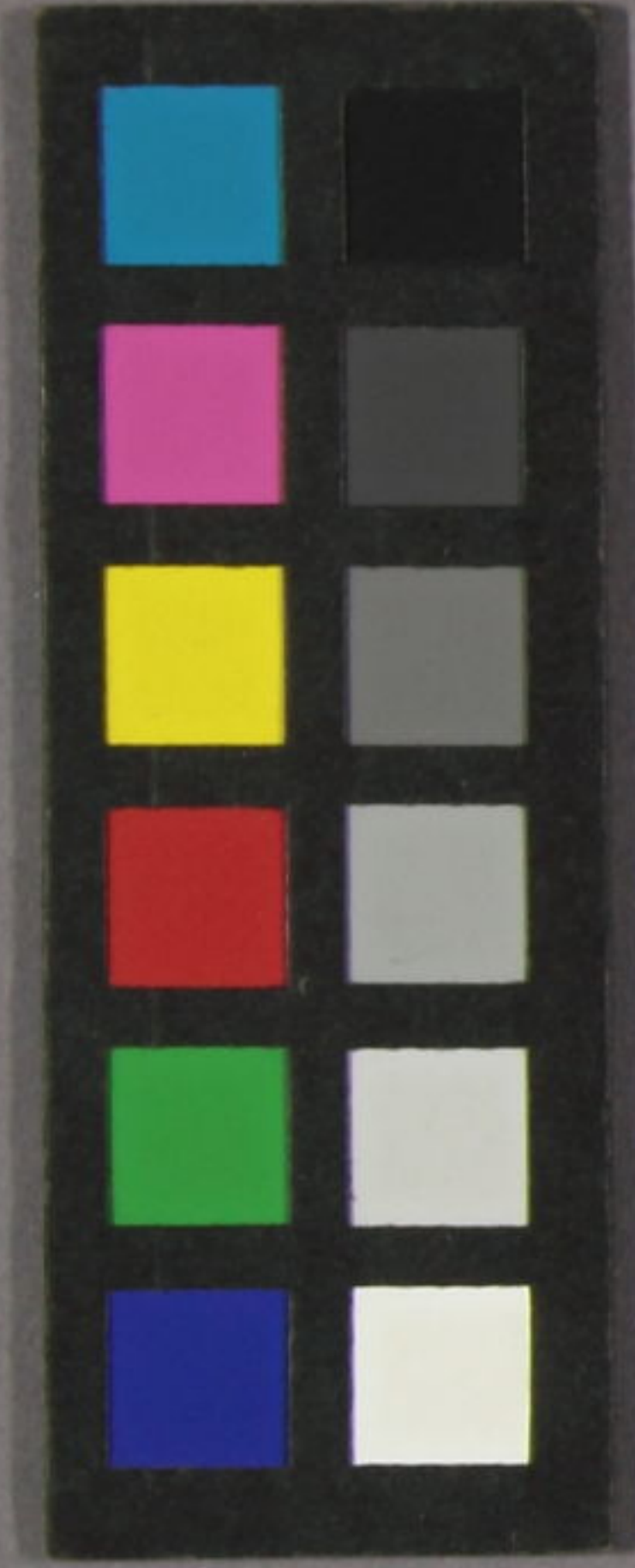
松岡清助

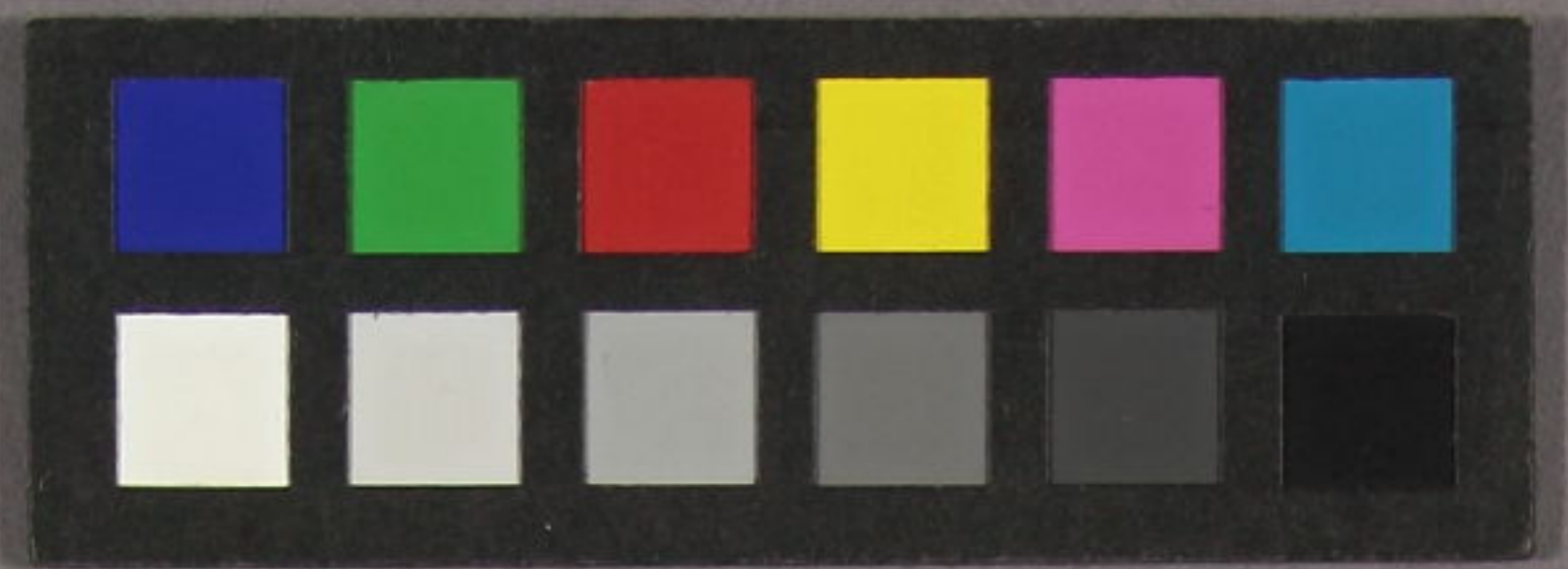
本間宗一

文化七  
應鐘中浣



應鐘





73 特  
3645  
195

目お紐舟の蓋ハ小まこつ角と居るこ  
一月船のり鯉と作りみ中入ふ合めし  
登男女にり里右板左板を括くせん  
志の尾首登り口傳

皇田文庫



73

73  
3645  
195

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese, on a yellowed paper slip. The text is arranged in several vertical columns, starting from the right side of the slip and moving towards the left. The characters are somewhat faded and difficult to decipher precisely, but appear to be a continuous passage of text.

Red square seal impression, likely a library or collection stamp, located on the lower left portion of the yellowed paper slip.